

観光地を含む面的交通安全対策に関する研究*

A Study on Area-wide Traffic Calming in Sightseeing Area*

橋本成仁**・轟 修***・伊豆原浩二****・五味川裕明*****

By Seiji HASHIMOTO**・Osamu TODOROKI***・Koji IZUHARA****・Hiroaki GOMIKAWA*****

1. はじめに

面的な広がりを持つ地区の交通安全対策としてコミュニティ・ゾーン¹⁾、くらしのみちゾーン、あんしん歩行エリアなどの地区交通安全対策が各地で進められている。これらの事業では主として日常的な生活空間における安全性・生活環境の向上が主な目的とされ、住宅地域やその周辺の商業地域での導入が進められ²⁾、大きな効果が示されている³⁾⁴⁾⁵⁾。

これらの整備事例の多くは、対象となる地域の居住者（・商業者）が安全対策の対象となり、計画づくりにおいても住民参加の当事者として参加することとなる。

本稿で取り上げる、郡上市八幡地区は、郡上八幡城とその城下町の家並みを魅力とした観光地の色彩が強く、観光という視点を考慮した計画づくりが必須の要件となっている。

このような観光地を含む地域での地区交通安全対策の事例としては石川県金沢市内などで導入事例が存在するが、郡上市の場合は、地区全体が観光地と居住者の生活空間が緊密に重なっており、地域住民の生活空間の整備と観光客の交通行動にあわせた整備、日常と非日常を両視みした計画策定と評価が求められる。

本研究では、この異なる評価主体から見た地域の安全性・生活環境整備の方針について検討を行うことを目的とする。

2. 対象地域の概要

対象地域は、郡上市八幡地区（旧郡上郡八幡町の中心部）の約84haであり、地区内の人口は平成16年5月末日現在で5,473人である。この地区には夏の郡上おどりとともに古い街並みなどを求め年間124万人余りの観光客が訪れている。とくに、中心市街地には街並み協定が結ばれており、観光客にとっては、魅力的な空間となっている。

この地区にあんしん歩行エリアを整備すべく、郡上市では地域住民とともに平成16年以降計画策定を進めている。



図1 あんしん歩行エリアの区域（外側）と中心市街地の街並み協定エリア



写真1 生活区域内への観光客の車両の進入

*キーワード：地区交通安全、観光地

**正員、工博、財団法人 豊田都市交通研究所

(愛知県豊田市若宮町1-1、

TEL : 0565-31-7543、E-mail : hashimoto@ttri.or.jp)

***正員、工修、財団法人 地域総合研究所

(岐阜市宇佐南四丁目8-16、

TEL : 058-274-9555、E-mail : todoroki@gri.or.jp)

****フェロー、工博、名古屋産業大学環境情報ビジネス学部

(愛知県尾張旭市新居町 3255-5

TEL : 0561-55-3011、E-mail : izuhara@nagoya-su.ac.jp)

*****非会員、郡上市八幡地域振興事務所

(岐阜県郡上市八幡町中坪 226-1

TEL : 0575-67-1814、E-mail : h.gomikawa@city.gujo.gifu.jp)

このため、①周辺を見るのに忙しく注意が散漫な傾向にある歩行者の安全確保の問題、②生活道路を使って入り込む観光客（自動車）の存在による安全対策が問題となる。特に、新町周辺は、生活空間の中に観光客が歩行者、自動車双方の形態で進入するため、地域住民自身の安全対策とともに大きな問題となっている。

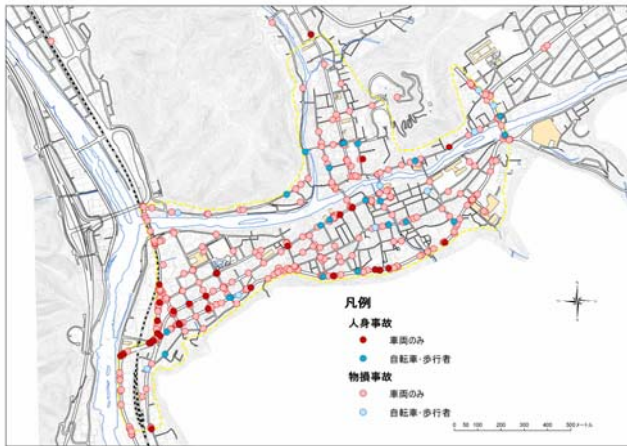


図2 地区内での交通事故の状況

3. 地域住民による検討の概要

あんしん歩行エリアの計画にあたり、当地区では下の表1のような調査を行いつつ、検討を行っている。表1の①②については地域住民の意見を反映することができたが、地域外の方の回答は②の調査での67票しかなく、特に観光客分はさらに少なくなっている。

この調査からは、交通量が多く、かつ見通しの悪い交差点や狭幅員で両側に商店が密集しており、路上駐車が恒常的になっている場所での危険感や城下町特有の街路網と路上駐車のために視認性が低下していることなどが問題点としてあげられている。

また、地域住民によるヒヤリ体験地点、アンケート調査地点と実際に交通事故が発生した地点の間に差異が存在することが分かっており⁶⁾、単純に居住者のヒヤリ

表1 計画策定のための調査実施状況

調査名	調査の内容
①ヒヤリ箇所調査	作成方法：ワークショップ形式により、参加者が日常的に感じるヒヤリ箇所を地図に記入。 内 容：クルマ・歩行者の立場でヒヤリとした箇所、ヒヤリの種類 ワークショップ開催日：平成16年10月15日 参加者数：62人（すべて対象地区在住者。3地区に分かれて議論した）
②アンケート調査	対 象：郡上市八幡地区で開催された「ふるさとまつり」への来場者 調査日：平成16年11月6日、7日 内 容：来場者に「あなたがヒヤリと思う場所」1箇所を白地図に記入 回収総数：531票（うち対象地区内在住者；464票）
③事故台帳調査	対象期間：平成13年1月1日～同15年12月31日 調査項目：岐阜県警郡上署に届け出のあったもので対象地区内での人身及び物損事故 事故総数：人身事故 52件、物損事故 390件

体験のみではなく、観光客の存在を考慮した計画づくりを行うことが必要であると考えられる。

4. 今後の課題

観光地的な要素を濃厚に含んだ地域での地区交通安全対策においては、居住者の視点と同様、観光客の視点が必要な検討要素として存在している。本研究では、現時点で観光客の視点を反映する調査を行っていないが、交通安全についての観光客への調査も行う予定である。

また、観光的な色彩の強い地区とその他の地区との比較を行うため、地区全体を対象とした意識調査を行う。

その際には、細街路構成されている地区の課題である防災面についても調査を行う予定である。

参考文献

- 1) 交通工学研究会：コミュニティ・ゾーン形成マニュアル，1996。
- 2) 交通工学研究会：コミュニティ・ゾーン実践マニュアル，2000。
- 3) 交通工学研究会：コミュニティ・ゾーンの評価と今後の地区交通安全，2004。
- 4) 橋本，坂本，的場，高宮：三鷹市コミュニティ・ゾーンの供用後評価，第19回交通工学研究発表会論文報告集，pp.209-212，1999。
- 5) 山岡，磯部：長期供用後におけるコミュニティ・ゾーンの交通実態とその評価，土木学会第59回年次学術講演会講演概要集，土木学会，CD-ROM，2004。
- 6) 轟，伊豆原，水谷，田口：住民参加によって作成されたヒヤリ地図と事故発生状況についての考察，土木学会第60回年次学術講演会講演概要集，土木学会，CD-ROM，2005。